

その他のコラム

本社事務所（総合管理センター）

1934（昭和 9）年 6 月 1 日、社名を現在の株式会社中山製鋼所に改称するとともに、大阪市大正区船町に本社事務所（現・総合管理センター）の建設に着手し、翌年 5 月に完成した。

設計は名建築家・村野藤吾によるもので、村野藤吾は一時期中山悦治宅に寄宿していた縁で、設計を担当することになった。

建設当時は地上 4 階・地下 1 階であったが、現在は地階が無くなっている。詳細は不明であるが、おそらく 1950（昭和 25）年のジェーン台風で船町一帯が浸水（GL+1.5m）した際に地階が水没し、回復不能になったためと推定される。

1981（昭和 56）年 5 月に一部の内外装を改修した以外特に補修も不要で、阪神大震災にも耐え、今日まで事務所としての機能を果たし続けている。



大船橋

木津川運河に架かる^{おおふなばし}大船橋は、1936（昭和 11）年 5 月に初代が建設された。この橋ができるまで船町地区は孤立した島で、交通手段は船（渡船/舢舨）のみであった。

初代大船橋は、当時大阪市唯一の跳開式可動橋で、開通式には大正区内の全小学校を始め大阪市内の小学校 1,300 名が国旗を手に渡り初めを行った。

橋が上がってしまい、遅刻しそうになり木津川運河を泳いで渡った社員もいたという。

開通後は物珍しさから、見物客が後を絶たなかった。

終戦後の長い休止期間を経て、1953（昭和 28）年 3 月の第 2 高炉再開に当たっては、大阪府・大阪市の連名でこの橋に祝福の看板が掲げられた。

なお、現在の大船橋は 1978（昭和 53）年に架け替えられた 2 代目である。



「ご安全に」の由来

当社を始め鉄鋼業各社で日常的に使われている「ご安全に」の挨拶は、ドイツの炭鉱作業者が頻繁に交わす挨拶「Gluckauf グリュック・アウフ ご無事で」に由来する。

1953（昭和28）年ドイツ滞在中にこの挨拶のことを知った住友金属（現・日本製鉄）の社員が、帰国後に「ご安全に」と翻訳して社内に広めたのが始まりとされる。

上下の分け隔てなく交わすことができるこの挨拶の効果で、社内のコミュニケーションが活発となり、安全成績も向上した。

このことが評判となり鉄鋼業各社に普及し、現在では様々な業種で使われている。

当社に普及したのは1978（昭和53）年頃。

大正区の区名

大正区は1932（昭和7）年、大阪市の区制改革により港区から分離・設立された。

昭和にできた区でありながら「大正」の名がつくのは、大正橋に由来する。

区設立に先立ち、住民に区名を募集したところ、一番多かったのが「大正橋区」だったが、長すぎるため最終的に「大正区」に決定した。

初代大正橋は1905（大正4）年に建設された。この橋ができるまで今の大正区全域は、木津川・尻無川・大阪港に囲まれ孤立した島で、交通手段は船に頼るしかなく住民は非常に不自由な思いをしていた。

このため、初代大正橋の開通は住民にとってこの上ない朗報で、区名の由来となった。

初代大正橋は、橋の下に船を通すため、当時日本一長いアーチ橋として建設されたが、交通量の増加に伴い揺れが激しくアーチに歪が出たため、1969（昭和44）年現在の2代目に架け替えられた。



初代大正橋

「船町」町名の由来

本社の所在地である大阪市大正区船町の町名は、次の万葉集和歌に由来する。

「あり通う難波の宮は海近み海女娘子らが乗れる船見ゆ」

「巻6 田辺福麻呂（たなべのさきまろ）」より出典

「安全第一」

鉄鋼業に限らずあらゆる業種で経営の基本となる「安全第一」の経営方針を最初に唱え実践したのは、20世紀初頭にアメリカ最大手鉄鋼メーカー・US スチール社の社長に就任した E.H.ゲーリーであった。ゲーリーが社長に就任する前の同社経営方針は、生産第一、品質第二、安全第三で安全が軽視されており、災害が絶えなかった。

敬虔なクリスチャンであったゲーリーは、人命軽視の風潮を嘆き社長就任と同時に経営方針を、安全第一（Safety First）、品質第二、生産第三に改めた。

その効果は絶大で、安全成績が飛躍的に改善されただけでなく、作業者が安心して働くことで定着率が増し、熟練度が向上して品質・生産性も飛躍的に改善された。

このことが評判となり、アメリカだけでなく日本を始めとした世界各国に「安全第一」の経営思想が定着するようになった。

陶壁（とうへき）

当社には5件の陶壁が飾られている。

- ① 事務管理センター1階ロビー：第4代社長 津田鉄夫作「そまみち杣道」



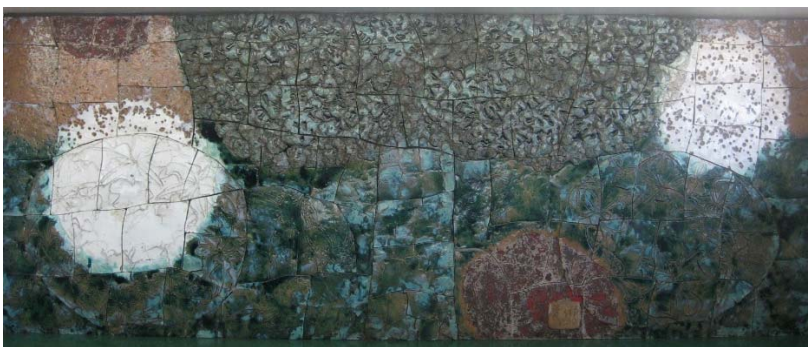
② 総合管理センター1階ロビー：加藤唐九郎作 「白竜」



③ 事務管理センター7階：加藤唐九郎作 「金風」



④ 事務管理センター5階：鈴木青々作 「百花爛漫」



鈴木青々氏は、日本を代表する陶芸家である加藤華仙氏の弟子に当たり、名古屋城の石垣からイメージを得て、各パーツが不ぞろい、表面が凸凹の陶壁創作に至った。陶壁という名称も鈴木青々氏の造語（加藤唐九郎氏の造語と言う説もある）。

⑤ 研究センター1階ロビー：第4代社長 津田鉄夫作「織部」



以上